たおやか瓦版
第2号
発行所
たおやかインターネット放送
2021年6月

人と自然が共生する、四谷の千枚田

鞍掛山の斜面に広がる山間集落に、約400年前に開墾された美しい棚田が広がっています。標高220～420mにかけて連なる石積みの棚田では、今でも20戸の農家が約420枚（最盛期には1296枚）の田を耕作しており、血と汗の辛苦をかけて先人たちが残した偉大な財産を風化させることなく、地域の人々が主体となって使命感をもって守り続けています。山の中腹からこんこんと湧き出る澄んだ水は、大雨が降っても濁ることがありません。水と緑にあふれた棚田は様々な動植物の住処にもなり、まるでおとぎ話のワンシーンのように、人と自然が共生する日本の原風景が脈々と息づいています。千枚田の石積みは、鞍掛山の転石のほか、山崩れで流出してきた石が使われており、「日本三大石積み棚田」の一つとも。無数の石積みが積み重なる光景からは、土石流災害に遭いながらも復旧に努めてきた先人達の努力と、今もなお保全に取り組んでいる人々の想い、歴史の重さが偲ばれます。「ミネアサヒ」は、中山間地域を栽培適性地として栽培される良食味品種。生産量が少なく、「幻の米」と呼ばれることも。四谷の千枚田のお米は、そのほとんどが自家用に消費されて市場に出回る量が少ないので、さらに貴重な一品です。

地域で取り組まれている保全活動

鞍掛山麓千枚田保存会が中心となって、地域の小・中学生などへの体験学習を実施。「食の原点とは何ぞや」をテーマに、将来の食のプロを目指す調理師学校の学生たちも、実体験を通じてコメの大切さを学んでいます。他にも、生き物観察会などのイベントを通じた都市と農村の交流、水路・里山の環境整備、美化活動に取り組んでいます。

四谷千枚田の歴史

日本三大石積み棚田　愛知県の鞍掛山麓南西斜面に広がる「四谷の千枚田」は、室町時代には既に田んぼがつくられていたとされ、標高883mの秀峰「鞍掛山」に降り注いだ雨が、恵まれた湧き水となって棚田全体を潤しています。1904年には「大代の山崩れ」と呼ばれる大規模な山崩れによって沢沿いの田んぼが土砂で埋まり、11人の方が亡くなるという甚大な被害を受けました。この大災害によって荒れ果てた地を、村人たちは“自らの手”で、わずか5年ほどで堅牢な石積み棚田に蘇らせたと語り継がれています。

里山生態系や景観の保全につながる棚田米

棚田米とは、山の斜面に作られた階段状の棚田で栽培されたお米です。現代まで残る棚田の多くは、豊かな自然環境と清浄な水に恵まれ、希少な動植物が棲む里山生態系の一部を構成しています。高齢化や過疎化で存続が危ぶまれる棚田環境を維持するため、お米を販売するだけでなく、観光や地域作りとセットで取り組む事例が目立ちます。「四谷の千枚田（愛知県新城市）」の米作りと地域振興をセットで行う取り組みや、「大山千枚田（千葉県鴨川市）」の棚田オーナー制度などがあります。

お問い合わせ新城市　鳳来総合支所　地域課電話番号：0536－22－9931ファクス：0536－32－1170〒441－1692愛知県新城市長篠字下り筬　番地　2鳳来総合支所
案内自動車：新東名新城インターから約30分新東名新城インターを出て「新城インター」信号交差点　右折

たおやかインターネット放送では歴史・環境・農業をテーマに番組をお送りします。皆様からの情報をお待ちしております開局年　2012年9月1日インターネット放送開始主　旨　環境・農業・歴史をテーマにした、情報番組を提供放送所　愛知県名古屋市天白区平針南2－102　㈲MS内代表者　森下　重春

HP：http://taoyaka.at-ninja.jp/
Email：taoyaka0@gmail.com